

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

【4歳児】 砂 ～主体性・協働性の探究～

< テーマの設定理由 >

当園の4歳児は「自ら進んで遊び、遊びを通して学ぶ」ことを目標とし、遊びの中で友だちと認めあい協力することを大切にしています。園庭の砂場にはいつもたくさんの子どもが集まり、それぞれ遊びに集中し、また子ども同士で学びあっています。そこで、今年度のテーマを**砂遊び**として、園庭の砂場がより楽しくなるよう改善し、子どもが夢中になり、遊びが豊かになる環境を整え、子どもの好奇心や友だちとの協働性を応援するためのプログラムを実施しました。



< 活動スケジュール >

担当教諭 池辺奈津子

| 日程 | 活動の内容 「保育者の問いかけ」や"アプローチ" | 環境設定（探究心への促し） | 活動中の様子(こどもの姿・声、先生との関わり) | ふり返り(担当教諭の気づき) |
|-------------|---|--|---|---|
| 1 5月21日 | 新しいおもちゃであそぼう 「なにができるかな?」「なにに味ですか?」 "イメージを表現し、言葉で共有する" | 新しい砂遊びセットについて説明し、使いたいものを自分で選べるよう目の前で広げる。怪獣のフィギュアを砂場のおもちゃとして使ってみる。水も使えるように貯め置きしたバケツも用意する。 | ・新しいおもちゃを前に、早く手にもちたくて焦った様子。 ・カップ、スプーンはすぐアイス屋になり「先生、アイスできました」→「何味ですか」→「チョコチップ（細かくした葉）がのってます」 ・じょうろやバケツの水の中に、葉を細かくちぎりスープやラーメンを作っていた。 ・保育者「のどかわいたな」→「コーヒーです（水と砂を混ぜて）」 | ・アイスや食べ物を作ると、嬉しそうに持ってきて食べさせるところまでやってくれる。 ・新しいおもちゃがあると作る料理が替わり、色々なアイデアがうまれた。 |
| 2 6月25日 | 砂場遊具キッチンカー①（ごっこ遊び×砂場遊び） 「キッチンカーってなんだ?」 "社会的なやりとり" | 園庭の砂場近くにある机とイスをいつもの定位置から動かし、キッチンカーの近く階段下に小さな食事コーナーをつくる。お店屋さんとお客さんの役割を交代してやってみる。 | ・店員さんとお客さんを順番にやってみた。 ・「〇〇ください」「少々おまちください」等女の子のセリフ使いは特に上手。 ・友だちとイメージを共有し、色々考え試して、お互いに見せあったりと関わりが深まっていた。 | ・キッチンカーがあることで、子どもたちの言葉遣いや振る舞いが本格的になって、その変化が大きくて驚いた。 ・キッチンカーにより、その後も子どもたちどうして自然に役割をわけ、お店屋さんごっこができていた。 |
| 3 9月5日 | 『オタフクソース・お好み焼きキッチンカー』がやってくる！みんなでお好み焼きを食べよう！ | 食育の一環として、お好み焼きが作られる工程を見て楽しみ、みんなで美味しくいただく。 | ・前日に保育者が「本物のキッチンカーがくるからお楽しみに！」と予告し、子どもたちは期待をもち心待ちにしていた。 ・当日は朝から「なにあの車?」と園庭に注目し、「いい匂いがする」等五感を使って目の前で調理されるお好み焼きを楽しみ、みんなで美味しく味わった。 | ・大人がキッチンカーで調理する様子をよく観察して、一人一人感謝の「ありがとう」が伝えられていた。 ・“食”への興味だけでなく、人とのよい関わりも体験できた。 |
| 4 9月11日 | 砂場遊具キッチンカー②（ごっこ遊び×砂場遊び） "共同" | 園庭にテントやテーブル、イスを広げて配置する。『お好み焼きキッチンカー』を真似て共同でお店屋さんをやってみる。ヘラを用意し、空のお好みソースも再利用する | ・「いらっしやいませー」「お好み焼きできましたよー」等、元気な声飛び交った。 ・砂をヘラでまぜたあとに、別の子が水のソースをかけたり、共同作業も楽しそうに遊んでいる。 | ・実際の体験が子どもの遊びに反映されていた。 ・子どもたちの中で自然に係分担当が生まれ、イメージを共有しながらの遊びや友だちとの関係性が深まった。 |
| 5 10月27日 | 水流しを使ってみんなで長い川を作ろう 「どうやったら水が流れていく?」 "水を流す（道具を使った実験）" "協働" | 挑戦心をくすぐるように、今までより4倍長い水流し（120センチ）や高さのでるケースを用意する。蛇口にホースをつなげて、勢いよく水が使えるようにする。水を流す、全体をみる、ゴールで確かめる等の役割分担をする。汚れてもよい服に着替えて、裸足で砂場にはいる。 | ・最初は個々に水流しを使って遊んでいた。 ・少しすると「つなげてみよう」の声があがり、協力する姿がみられた。 ・水が上手く流れず、何度も置き直したり、高さを調整したり、工夫しながら試行錯誤していた。 ・水流しが上手くつながり、水が最後のダムまで流れた時に、子どもたちが一斉に声をあげ笑顔になり、とても嬉しそうだった。 | ・色々工夫しながら、最後に水が流れた時、協働する中での達成感をもつことができた。 ・後日、年少児にも水長しの真似をする子がでてきた。 |